

平成26年9月24日（水）

国土交通省関東地方整備局 千葉国道事務所
東日本高速道路株式会社 関東支社

記 者 発 表 資 料



けんおうどう とうがね きさらづひがし
圏央道の東金JCTから木更津東IC間

開通後の整備効果についてお知らせします。

平成25年4月27日（土）に開通しました千葉県内の圏央道 東金JCTから木更津東IC間（延長42.9km）の整備効果をお知らせします。

＜＜圏央道沿線の観光地がより近く、来訪者も増加＞＞

- ・ 圏央道の開通でアクセス性が向上したことで、GW期間中の観光入込客数は、開通前と比べて2年連続で増加。

＜＜より早く、より便利になった高速バス。利用者も3割増＞＞

- ・ 茂原駅発～羽田空港・横浜駅へ向かう高速バスは、圏央道開通後に所要時間が短縮し、利用者数も約3割増加。なお、時間短縮により、全便が横浜駅終点に変更。

＜＜千葉県の第三次救急医療施設の人口カバー圏が95%に＞＞

- ・ 圏央道利用による移動時間の短縮や、東千葉メディカルセンターの開業により、第三次救急医療施設の30分圏域が拡大し、第三次救急医療施設の千葉県人口カバー率が89%⇒95%（+6%）へ向上。

＜＜新規の工場や大規模小売店舗の立地面積が急増＞＞

- ・ 過去10年間に立地した新規工場面積のうち、H24年～H25年の2年間に立地した面積は約3割。過去8年間に立地した大規模小売店舗面積のうち、H24年～H26年の3年間に立地した面積は約7割。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、千葉県政記者会、都庁記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ
千葉市政記者会、東金記者クラブ、茂原記者クラブ、市原記者クラブ、木更津記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所 電話 043-287-0311（代表）

副所長 こんどう せいいちろう 計画課長 よこた ゆうじろう
近藤 誠一郎 横田 雄二郎

東日本高速道路株式会社 関東支社 広報課 電話 03-5828-8347（マスコミ専用）

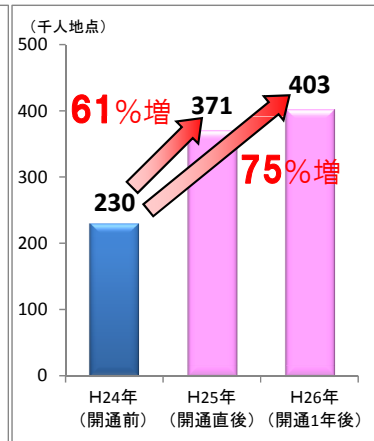
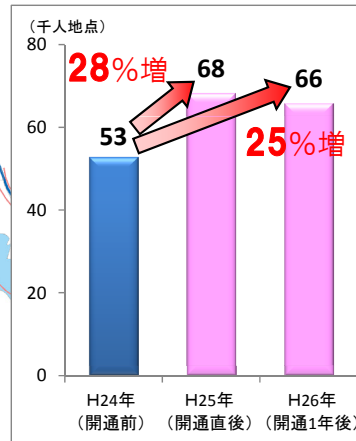
圏央道の開通により観光地までのアクセス性が向上し、観光入込客数も増加。

- ・圏央道が開通し、高速道路からのアクセス性が向上したことでゴールデンウィーク期間中の観光入込客数は、開通前と比較すると2年連続で増加しています。
- ・観光客からは、「千葉県が身近になった」「出発時間を遅らせることができた」との声があがるなど、房総地域への観光に効果を感じられています。

■九十九里・南房総地域の観光入込客数（GW期間中）

九十九里地域

南房総地域

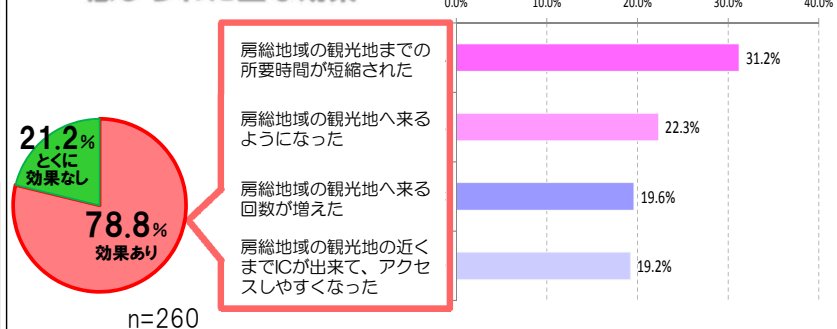


出典：「ゴールデンウィークにおける観光入込状況（千葉県HPより）」
 開通前：平成24年4月28日（土）～5月6日（日）の9日間
 開通直後：平成25年4月27日（土）～5月6日（月）の10日間
 開通1年後：平成26年4月26日（土）～5月6日（火）の11日間

■圏央道開通による観光での効果

■圏央道（東金JCT～木更津東IC）を利用して、房総地域へ観光・海水浴・サーフィン等で利用された際に感じられた効果についてあてはまるものを全て選んで下さい。

感じられた主な効果



出典：平成25年11月 Webアンケート調査（千葉国道事務所調べ）
 調査対象：千葉県・東京都・神奈川県・埼玉県・茨城県在住者

観光施設訪問者の声

出発時間を30～60分遅く出発しても、観光等の時間に余裕ができました。

（神奈川県小田原市在住）

観光施設訪問者の声

千葉県が身近になりました。渋滞の激しい地域よりも房総地域をこれからも利用していきたいです。

（神奈川県横浜市在住）

観光施設訪問者の声

高速道路が混雑している際に、経路選択が可能になったため、渋滞を回避できるようになりました。

（神奈川県川崎市在住）

出典：平成25年11月 Webアンケート調査（千葉国道事務所調べ）
 調査対象：千葉県・東京都・神奈川県・埼玉県・茨城県在住者

充実する交通ネットワーク

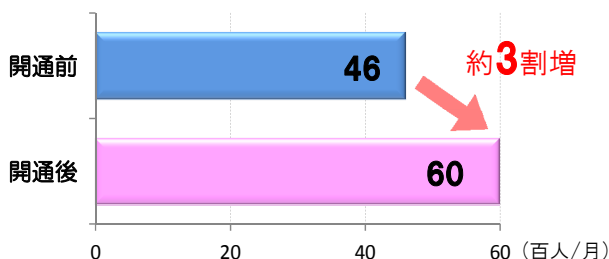
茂原駅発～羽田空港行の高速バスは、圏央道経由による所要時間短縮により、高速バスの利用が便利に。時間も短縮し利用者も3割増、利用者から好評の声を頂いています。

- ・茂原駅～羽田空港・横浜駅へ向かう高速バスは、圏央道開通後に所要時間が短縮し、利用者数も約3割増加しました。なお、時間短縮により、全便が横浜駅終点となりました。
- ・利用者からは、「高速バスを利用するようになった」「目的地までの所要時間が短くなった」「バス停の新設で、より便利に」との声もあがっています。

■圏央道（東金JCT～木更津東IC）経由の高速バス（茂原駅～羽田空港・横浜駅）

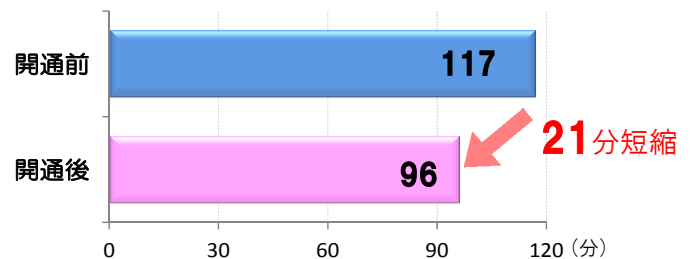


高速バス利用者数の推移 （茂原駅～横浜駅）



※茂原駅～羽田空港・横浜駅は、開通後に全便が横浜駅へ乗り入れ。
出典：バス事業者からの提供データ（下記期間の利用実績より月平均値を算出）
開通前：平成24年5月～平成25年3月
開通後：平成25年5月～平成26年3月

高速バス運行時間の変化 （茂原駅～横浜駅）



出典：フロープデータ
集計期間：平成24年5月1日～平成25年2月28日（開通前）の運行時間帯
平成25年5月1日～平成26年2月28日（開通後）の運行時間帯
時刻表による所要時間：（開通前）茂原駅→羽田空港（90分）→横浜駅（120分）
（開通後）茂原駅→羽田空港（70分）→横浜駅（100分）

高速バス事業者の声



所要時間が短縮されたため、圏央道開通前から運行していた茂原駅～羽田空港を全便横浜駅まで運行することとしました。お客様の利用も増加しています。

出典：平成25年11月 ヒアリング調査（千葉国道事務所調べ）

高速バス利用者の声



羽田空港には、これまでは袖ヶ浦バスターミナルから利用していましたが、圏央道開通後は市原鶴舞バスターミナルからの利用に変更し便利になりました。

（千葉県いすみ市在住）

出典：平成25年11月 Webアンケート調査（千葉国道事務所調べ）
調査対象：千葉県・東京都・神奈川県・埼玉県・茨城県在住者

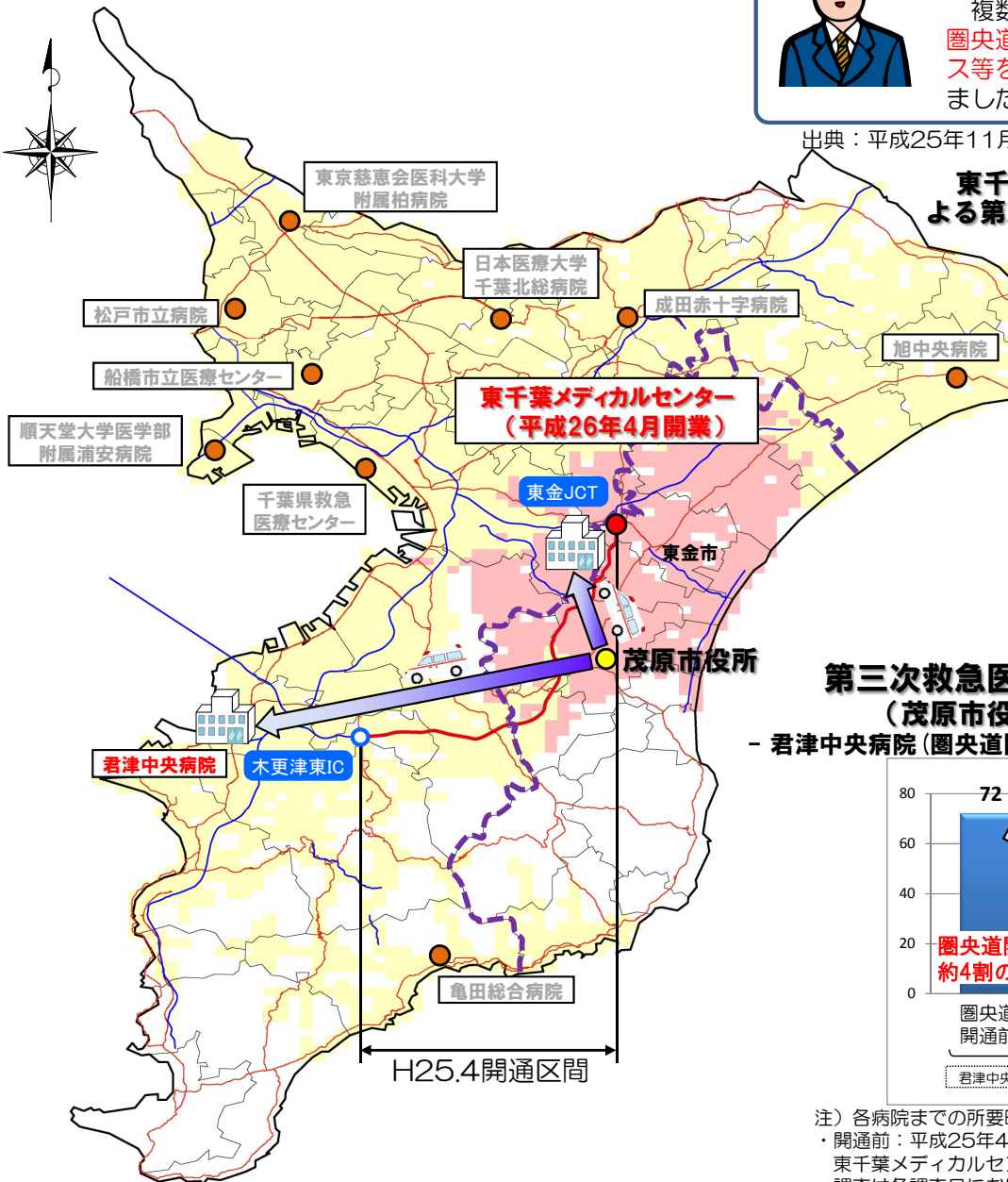
救急医療活動への支援

アクセス向上により新たな第三次救急医療施設が立地、千葉県の第三次救急医療施設の人口カバー率が95%に。

- ・ 圏央道東金JCT・IC直近に東千葉メディカルセンターが平成26年4月に開業。
- ・ 第三次救急医療施設の30分圏域は圏央道開通により拡大し、さらに、東千葉メディカルセンターの開業により、第三次救急医療施設の千葉県人口カバー率が89%⇒95%（+6%）へ向上しました。

※ 第三次救急医療施設：重症及び複数の診療科領域にわたるすべての重篤救急患者に対し、高度な救急医療を総合的に24時間体制で提供できる機能を有する病院

■第三次救急医療施設への30分圏域



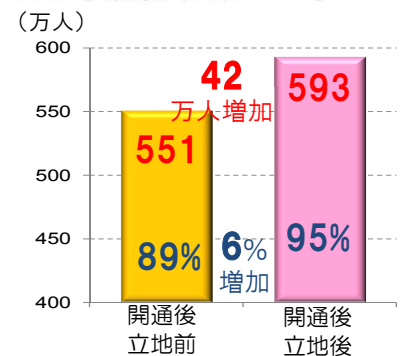
病院設立関係者の声



複数の立地候補の中から、土地の現況、圏央道の整備状況、周辺地域からのアクセス等を総合的に判断して立地位置を決定しました。

出典：平成25年11月 ヒアリング調査（千葉国道事務所調べ）

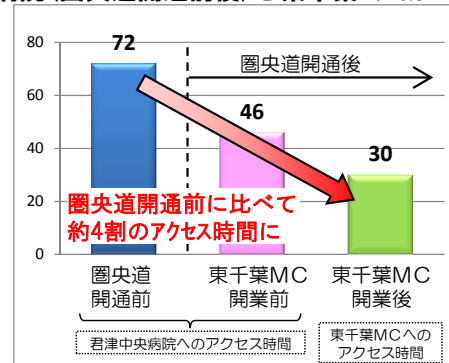
東千葉メディカルセンター開業前後による第三次救急医療施設30分カバー圏域人口と千葉県人口カバー率



出典：人口は平成22年国勢調査

第三次救急医療施設へのアクセス時間（茂原市役所を起点としたケース）

－ 君津中央病院（圏央道開通前後）と東千葉メディカルセンター開業後 －



注）各病院までの所要時間は、千葉国道事務所による実測調査結果
 ・ 開通前：平成25年4月11日（木）、開通後：平成25年5月28日（火）、東千葉メディカルセンター開業後：平成26年6月25日（水）に調査
 ・ 調査は各調査日における4回走行の平均値（7時、10時、13時、16時）

救急搬送関係者の声



東千葉メディカルセンターの開業後、約3ヶ月の間に茂原市をはじめとする長生地域から30件以上の救急搬送があり、当地域からの救急搬送先病院の選択肢が増えました。圏央道が利用できることで病院までの到着時間が早くなり、搬送患者や救急隊員の負担軽減の面で大きな効果が出ています。

出典：平成26年6月 ヒアリング調査（千葉国道事務所調べ）

出典：プローブデータ
 集計期間：平成25年5月1日～平成26年2月28日（開通後）

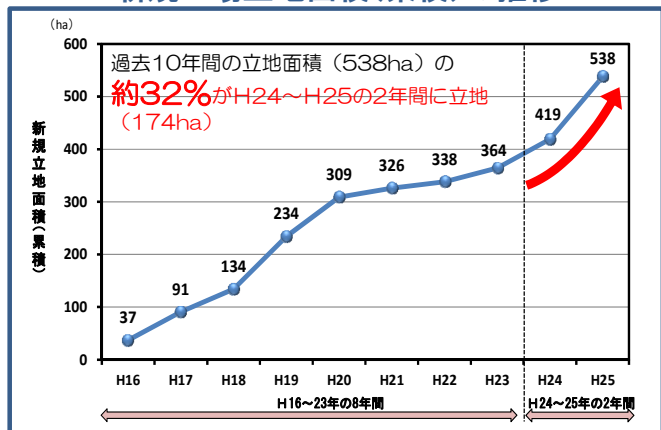
地域活性化の支援（工場立地・大規模小売店舗立地）

圏央道の開通にあわせ、新規の工場や大規模小売店舗の立地面積が増加しているとともに、新たな工業団地が整備されます。

- ・過去10年間に立地した新規工場面積（累積）のうち、H24年～H25年の2年間に立地した面積は約3割。過去8年間に立地した大規模小売店舗面積（累積）のうち、H24年～H26年の3年間に立地した面積は約7割。
- ・圏央道沿線に、新たな工業団地（茂原にいはる工業団地）が整備予定。

■圏央道の開通と千葉県内の工場及び大規模小売店舗の立地面積（累積）の推移

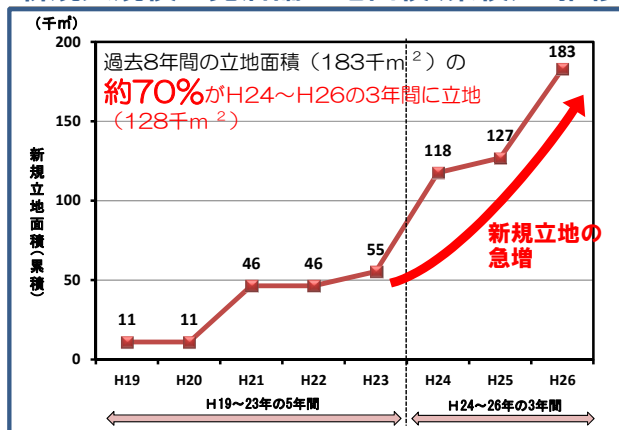
新規工場立地面積（累積）の推移



集計範囲は、千葉県全域

出典：「工場立地動向調査」（経済産業省）、H26.3の速報結果より作成

新規大規模小売店舗立地面積（累積）の推移



【圏央道通過自治体：8市町村】

・東金市、大網白里市、茂原市、長柄町、長南町、市原市（圏央道周辺のみ）、木更津市、袖ヶ浦市

資料：千葉県HP（大規模小売店舗立地法に係る届出の概要、H19.4～H26.3）

■圏央道沿線の工業団地の立地状況と新たな工業団地の計画



既存工業団地を有する東金市役所の声



圏央道開通前の平成24年度から開通後の平成25年度にかけて、千葉東テクノグリーンパークの分譲及び賃貸契約があり、問い合わせについても増加してきております。圏央道の開通を契機に全ての分譲・賃貸区画が契約され、地域の活性化につながることを期待しています。

出典：平成26年6月 ヒアリング調査（千葉国道事務所調べ）

新規立地企業の声



圏央道の開通により、木更津港や成田空港・羽田空港へのアクセスも良くなるため、工業団地への立地を決めました。

出典：平成25年7月 ヒアリング調査（千葉国道事務所調べ）

茂原にいはる工業団地

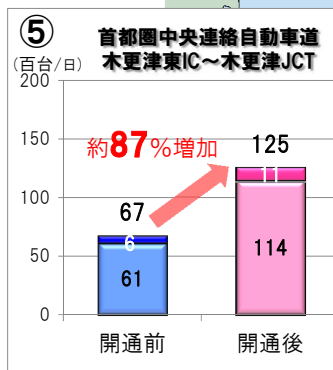
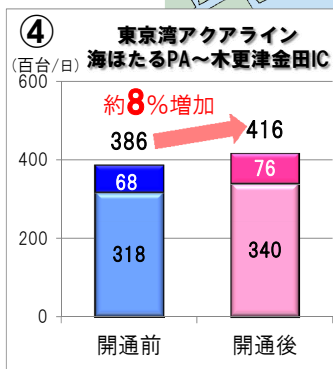
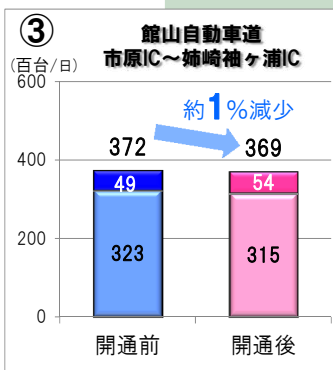
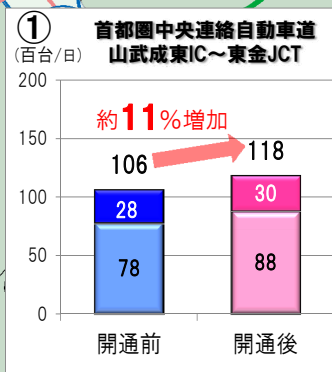
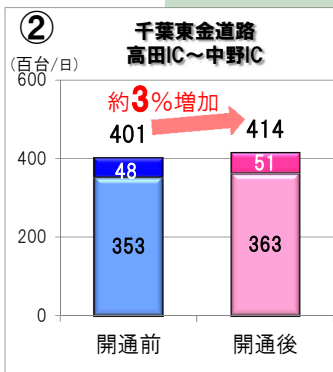
- 所在地：茂原市下太田
- 面積
全体面積：約42ha(予定)
分譲面積：約19ha(予定)
- 分譲開始：平成29年度(予定)

出典：茂原にいはる工業団地パンフレット、千葉県、茂原市のHPより

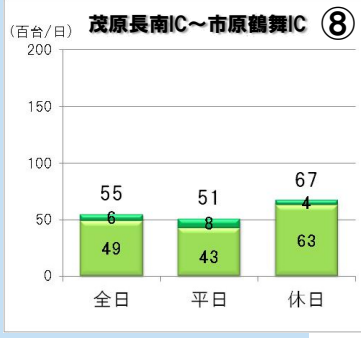
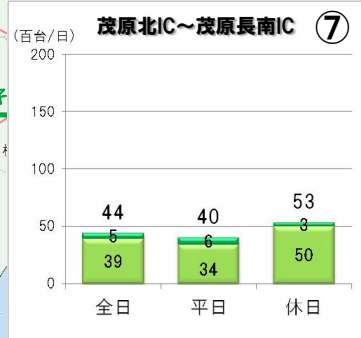
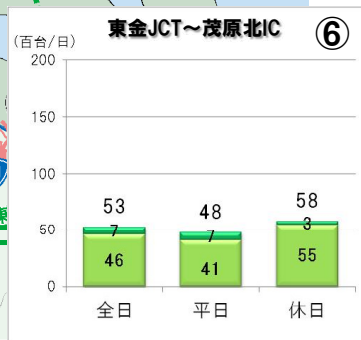
圏央道がつながったことにより、利便性が高まり高速道路の交通量が全体的に増加しました。

- ・ 圏央道「東金JCT～木更津東IC」の開通後1年間の1日あたりの平均交通量は、全日で約4,400～9,300台。
- ・ 開通区間から東京湾アクアラインに連絡する圏央道「木更津東IC～木更津JCT」では、1日あたりの交通量が約87%増加しました。

【開通区間周辺の交通状況】



【開通区間の交通状況】

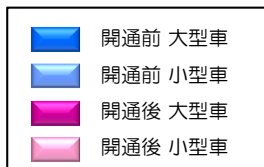


(注1) 交通量は、開 通 前：平成24年4月29日(日)～平成25年4月26日(金)の日交通量の平均値
開 通 後：平成25年4月28日(日)～平成26年4月27日(日)の日交通量の平均値
※なお、交通量は百台単位で四捨五入したものである。

※交通量の比較は、開通前と1年後を比較したものである。

※通行止め(通行止め1時間以上実施を対象)による道路閉鎖日を除く。

(注2) 交通量はETC車以外も含む全車種合計の本線交通量(トラフィックカウンター[道路に備え付けられている交通量(概数)の自動計測装置]による速報値)

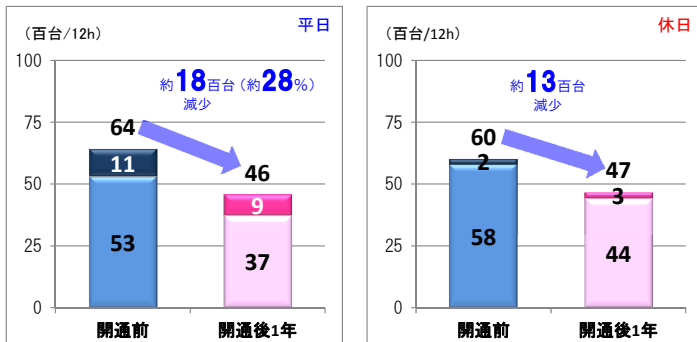


圏央道と並行する国道の交通量は減少しています。

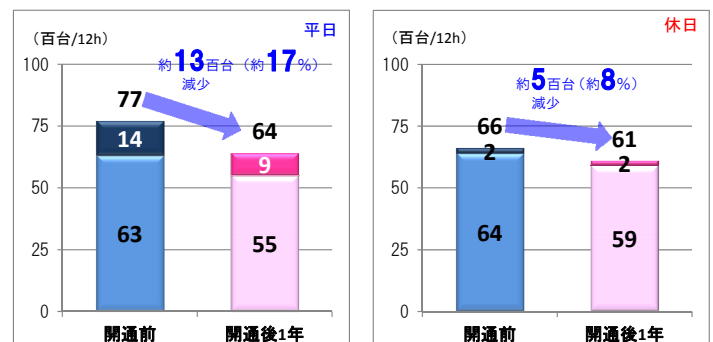
- ・「圏央道と並行する」国道409号の交通量は、開通後に平日では約13～18百台／12h減少し、休日では約5～13百台／12h減少しています。



高谷交差点



米沢交差点



【調査日】 開 通 前：平成24年11月29日（木）7：00～19：00（平日）

平成24年 8月 5日（日）7：00～19：00（休日）

開 通 後 1 年：開通後に実施した4回の交通量調査結果の平均値（調査時間は7：00～19：00）

- ・開通1ヶ月後：平成25年 5月28日（火：平日）、平成25年 6月 2日（日：休日）
- ・開通3ヶ月後：平成25年 7月17日（水：平日）、平成25年 8月 4日（日：休日）
- ・開通6ヶ月後：平成25年10月29日（火：平日）、平成25年11月 3日（日：休日）
- ・開 通 1 年 後：平成26年 4月16日（水：平日）、平成26年 5月 4日（日：休日）

※なお、交通量は百台単位で四捨五入したものである。

※交通量の比較は、開通前と開通後1年を比較したものである。

圏央道開通区間概要

●首都圏中央連絡自動車道(圏央道)は、首都圏の道路交通の円滑化、沿線都市間の連絡強化等を目的とした都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。現在までに約196kmが開通しています。

●今回開通区間の概要

路線名：国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

○開通区間：東金JCT（東金市丹尾）～木更津東IC（木更津市下郡）

○開通日時：平成25年4月27日（土） 14時

○延長：42.9km

○車線数：暫定2車線

○開通IC・JCT：東金JCT、茂原北IC、茂原長南IC、市原鶴舞IC、高滝湖PA※1

○アクセス道路：千葉東金道路、国道126号、（主）五井本納線、^{ほんのう}

国道409号（長生グリーンソライ）、国道297号 ※1高滝湖PA（内回り）平成25年7月12日オープン
（外回り）工事中

■今回開通区間の位置図

